第３回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会　会議録

１　日時

2022 年 11 月 14 日（月）　午前 10 時 00 分から午後 12 時 00 分

２　場所

愛知議会議事堂１階ラウンジ

３　出席者

來田享子（座長）	井澤悠樹	伊藤央二	大勝志津穂
大竹正芳	田中希代子	寺田恭子	平井克明
藤嶋典弘	古井成之（代理出席）	淀川悦子	

（欠席委員：髙橋淳一郎、中嶋和男）

（会長除き 50 音順、敬称略）

４　傍聴人等

なし

５　議題

⑴ 次期愛知県スポーツ推進計画（仮称）の骨子案について

⑵ その他

議題および議事の要旨

事務局（司会）　皆様お揃いになりましたので、ただいまから第３回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。私は司会を務めます、愛知県スポーツ局スポーツ振興課担当課長の市川でございます。

新型コロナの感染拡大防止のため、皆様にはマスクの着用や会場内での消毒にご協力いただくとともに、適切な換気、マイクの消毒など対策を徹底して開催いたします。開催に当たりまして、愛知県スポーツ局長の成瀬から挨拶を申し上げます。

事務局（成瀬局長）　愛知県スポーツ局長の成瀬でございます。委員の皆様方におかれましては、日頃から本県のスポーツ行政の推進に当たりまして、格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。また、本日はご多忙中にもかかわらず、第３回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

当局では、アジア競技大会・アジアパラ競技大会についても担当しているのですが、国際スポーツ大会に対する世論の風当たりは、昨今の色々なスポンサーを巡る不祥事などもあり、アジア大会の準備も非常に厳しい状況になっているかな、と感じております。そういったこともあり、色々な仕掛けを考えながら進めているわけですけれども、来年の杭州大会につい

ては、中国のゼロコロナ政策により開催されるかどうかは分からないという状況にあるとは言え、サッカーのワールドカップも開かれますし、パリオリンピックも開催される見込みということで、2026年までには状況も好転していくのではないかという期待を持っております。

私どもスポーツ局では、モータースポーツも担当しておりまして、11月10日から昨日までの４日間、世界最高峰のＦＩＡ世界ラリー選手権が開催されました。開催中には色々な出来事もありましたが、10万人近くの観客を集め、大いに盛り上がりました。こうしたスポーツイベントを活かし、地域活性化につなげてまいりたいと考えております。

次期計画につきましては、８月３日に行った第２回策定委員会の後、９月に開催しました愛知県スポーツ推進審議会において骨子案を決定し、パブリック・コメントを実施したところでございます。策定委員会の皆様には、骨子案の作成に向けて様々なご意見・ご協力をいただきましたことを改めてお礼申し上げます。

また、審議会での議論や、パブリック・コメントにおいていただいたご意見、スポーツ関係団体に対するヒアリングなどを踏まえまして、次期計画の素案を作成したところでございます。詳細については後ほど事務局からご説明いたしますが、本日は、素案における各施策の具体的な取組の方向性などについて、日頃の活動を踏まえて、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

以上、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（司会）

本日は、座長をお願いしております、中京大学スポーツ科学部教授の來田享子様をはじめ、11名の委員の方にご出席いただいております。

なお、東海学園大学スポーツ健康科学部講師の井澤悠樹様、中京大学スポーツ科学部准教授の伊藤央二様、桜花学園大学保育学部教授の寺田恭子様は、オンラインにてご出席いただいております。また、愛知県高等学校体育連盟からは、小島寿文様の代理として、事務局長の古井成之様にご出席をいただいております。

それでは、これより先の進行は來田座長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

來田座長

皆さんおはようございます。オンラインの先生方もおはようございます。先ほどスポーツ局長からもお話がありましたが、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける不正は、スポーツの価値をものすごく下げる事態になっていると感じています。私自身も理事会に関わっておりましたが、やはりオープンに議論ができない雰囲気といいますか、そういう雰囲気の中で起こるべくして起こってしまったのかなと、身をもって感じているところがあります。もちろん「みなし公務員」という基本的なことが理解されていなかったという側面もあるかもしれませんし、様々な要因が重なり、今の事態が起きたのだろうと思います。この課題の解決をスポーツ界が継承していくということは非常に重要ですし、それがないとまた同じことが起きるかもしれません。少なくとも愛知県でアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開かれる際には、規模は小さいといえどもやはり国際的なスポ

ーツイベントですので、そうしたことが起きないように、むしろ東京大会で失った日本と国際社会に対する信頼を愛知県が取り返すというくらいの気持ちでやらないといけないなと思います。そうした課題の解決も含めての政策策定に関わっているということの責任の重さを改めて感じている次第であります。この問題だけではなく、市民の皆さんがスポーツを通じて、より良い社会になっていくと思えるような政策をぜひここで仕上げていくということを一生懸命やっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速議論の方に入っていきたいと思います。素案に関する資料がお手元にあると思います。資料１の部分、これを中心に議論をしていただきますが、会議の進行については、これまでと同様に、まず事務局から説明をしていただこうと思います。そして、皆様からその後にご意見を伺うということにしたいと思います。

ちなみに、先にご発言いただくポイントのご紹介しておきますと、１巡目では素案における「施策の体系と具体的な取組の展開」についてご発言をいただきたいと考えています。結構分厚いので、大変だと思います。素案の中核になりますけれども、そこについてです。次に２巡目では、進捗管理目標ですとか、あるいは資料２、一番県民の目につきやすい資料になるかと思いますけれども、これについて発言をしていただきたいと考えております。進捗管理目標については、後ほど説明があると思いますけれども、今日のご意見を踏まえながら作っていただいて、次回にご提案をいただくというふうな形になるかと思っております。

では説明をお願いいたします。

事務局（山肥田課長）

スポーツ振興課長の山肥田でございます。よろしくお願いいたします。

まず、資料１をご覧ください。第１回、第２回の策定委員会での議論を踏まえ、９月に開催しました愛知県スポーツ推進審議会において決定していただいた骨子案をもとに、素案を作成いたしました。

１ページの「策定趣旨」ですとか、２ページの「計画の位置づけ」、それから「計画期間」、３から７ページの「検討の視点」で整理している「今後の社会経済の展望」ですとか、「今後の主なスポーツ関連の動き」につきましては、骨子案の記載内容を詳しくさせていただいたものですので、説明は割愛させていただきます。

次に８ページ、９ページは、次期計画における「基本理念」と「目指すべき姿」を整理しております。第２回策定委員会においていただいたご意見を踏まえ、基本理念は「アジア・アジアパラ競技大会を活かし、すべての人がともにスポーツを楽しみ、スポーツの力で豊かで活力ある愛知の実現」とし、目指すべき姿として、「すべての人が生涯にわたりスポーツに関わり、スポーツにより人と人とがつながる愛知」、「世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出し、夢や感動を分かち合う愛知」、「スポーツを通じて世界から人を呼び込み、交流を生み出し、持続的に成長する愛知」の３つを描いております。

そして、ページ下段には、「目指すべき姿の実現に向けた成果達成目標」として、成人と障害者の「スポーツ実施率」、「国際大会に出場する本県ゆ

かりの競技者数」、「県が支援するスポーツ大会への参加者数」を掲げておりますが、委員の皆様からご意見をいただきながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

１枚おめくりいただきまして、11 ページ以降は「施策の体系と具体的な取組の展開」でございます。５つの基本施策について、現状と課題を整理した上で、各施策の方向性と具体的な取組について整理いたしました。

まず、基本施策「Ⅰ　多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」でございます。12 ページをご覧ください。「スポーツ人口の裾野拡大」に向けては、「ＳＮＳ等を活用した情報発信」として、本県の「みる」スポーツ情報ポータルサイト「aispo!web」やフリーマガジン「aispo!」を活用した情報発信、本県の「する」スポーツ情報サイト「aispo!Do!」を活用した県内のスポーツイベントやスポーツ施設等の情報発信を掲げております。また、「親子で楽しめるスポーツ機会の充実」として、親子で取り組むことができる運動プログラムの発信やイベントを開催するとともに、幅広い世代で楽しめるニュースポーツ等を推進してまいります。

13 ページに移りまして、「あいち健康マイレージ事業の推進」として、市町村と協働し、県民の主体的な健康づくりへの取組を支援するとともに、「企業と連携した健康づくり支援」として、経済団体や企業等と連携し、働く世代のスポーツの促進に積極的に取り組む企業を支援してまいります。また、「高齢者の生きがいづくり支援」として、老人クラブへの活動支援を通して、高齢者の積極的な社会参加を促してまいります。

「障害者スポーツの推進」に向けては、「地域や大学、企業との連携や指導者・支援者の確保・育成等を通じた体制整備」として、連絡協議会の開催による総合的な施策推進や、県社会福祉協議会と連携し、障害者スポーツ指導員の養成に取り組んでまいります。

14 ページに移りまして、「あいちパラスポーツサポーター」など「ささえる」人材の確保を図るとともに、県内には障害者スポーツの競技団体が少ないことから、競技団体に対するパラ部門の創設に向けた支援などに取り組んでまいります。また、「身近な地域でスポーツに関わる機会の創出」として、総合型スポーツクラブにおけるプログラムの充実や、地域や医療機関への競技用具の貸与などを行うとともに、「スポーツによる障害者と地域住民との交流促進」として、障害のある人もない人も誰もが楽しめるプログラムの実施や、障害者スポーツに関するイベントの開催を通じて、共生社会の実現に向けた機運を醸成してまいります。

15 ページに移りまして、「地域のスポーツ環境の充実」に向けては、「スポーツ施設の整備・充実」や「都市公園の整備・充実」、「県立学校施設の有効活用」を推進してまいります。また、総合型地域スポーツクラブについては、学校の運動部活動やスポーツ少年団との連携、障害者スポーツへの取組等、様々な役割が期待されることから、「総合型地域スポーツクラブの認知度向上」を図るとともに、「クラブの質的向上に向けた「登録・認証制度」の活用」を進め、県内のクラブが登録基準を満たすよう、働きかけてまいります。

１枚おめくりいただき 16 ページに移りまして、「クラブ間のネットワー

クづくり」として、関係団体との連携を促進するとともに、新たな総合型地域スポーツクラブの創設に向け支援してまいります。さらに、「スポーツ推進委員の資質向上・活動促進」として、研修機会の充実などによりスポーツ推進委員の活動意欲を喚起し、地域での熱意ある活動を促進してまいります。

進捗管理目標としては、「県内スポーツ情報を発信するウェブサイトのアクセス件数」や「あいちパラスポーツサポーター養成研修参加者数」などを検討しておりますが、今後項目の充実や内容の精査を図ってまいります。

次に基本施策「Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実」でございます。18 ページをご覧ください。「児童生徒の体力向上」に向けては、「日頃の身体活動の充実」として、幼児期における体力づくりの重要性についての理解促進や、幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との連携強化に取り組んでまいります。また、「運動・スポーツに対する興味・関心の喚起」として、学校や児童生徒に対する表彰や、プロスポーツチーム等と連携した取組を通じて、子どもの運動・スポーツへの参加を促進してまいります。そして、「子どもの体力向上に向けた取組の推進」として、ICT の積極的な活用や、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を検証するなど、子どもの体力低下の要因を探求し、取組の改善につなげてまいります。

19 ページに移りまして、「学校体育・スポーツの充実」に向けては、「研修などによる教員の指導力向上」の推進や、「地域の指導者・団体の活用など指導体制の充実」として、専門性を有する地域の指導者・団体等の協力を通じて質の高い授業を展開していくとともに、「特別支援学校との連携」や「学校体育施設・設備等の安全管理の推進」を図ってまいります。

また、「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」に向けては、「地域のスポーツ資源を活用した指導の充実」を図るとともに、１枚おめくりいただき 20 ページに移りまして、「持続的な運動部活動の推進」として、大会運営の見直しの検討を進めるなど、児童生徒のスポーツの機会や活躍の場を確保するための方策を検討してまいります。また、「教員の指導力向上」を進めるとともに、「部活動指導員の確保や人材バンクの設置による人材の充実」を図ってまいります。さらに、「複数の移行パターンの構築による運動部活動の地域移行の推進」としまして、地域の実情や生徒のニーズに合わせた複数の移行パターンを構築するとともに、学校と移行先との情報共有の促進や、家庭の経済状況により子どもがスポーツ機会を失うことがないよう支援に努めてまいります。

21 ページに移りまして、「「部活動指導ガイドライン」の周知徹底」として、児童生徒の心身の健康維持や教員の負担軽減を図るとともに、勝利至上主義に対する意識改革や体罰の根絶に向けた取組を進めてまいります。

進捗管理目標としては、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力・運動能力の合計点」や「1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒」などを検討しております。

次に、基本施策「Ⅲ　トップアスリートの育成、活躍支援」でございます。24 ページをご覧ください。「トップアスリート・パラアスリートの発掘・育成」に向けては、「あいちトップアスリートアカデミーにおける地元

出身選手の発掘・育成」として、県内全域からスポーツ能力の高い子どもたち等を発掘し、国際大会においてトップアスリートとして活躍できるよう、各競技団体等と連携して取組を進めてまいります。また、「大学との連携に基づく取組の推進」として、大学が有するスポーツ資源を有効活用し、競技力の強化につなげるとともに、「スポーツ医・科学に基づく支援体制の充実」に向けた取組を進めてめいります。

「トップアスリート・パラアスリートの強化・活用」に向けては、「県強化指定選手への支援」として、県強化指定アスリート・パラアスリートの合宿・大会への参加や競技用具の購入費用などを支援するとともに、25 ページに移りまして、「アスリートのキャリア形成に向けた支援」として、ＪＯＣや経済団体、企業と連携し、アスリートが県内企業に就職し、安定した生活環境で競技に専念できる機会を提供してまいります。また、「トップレベルの選手・指導者との交流機会の創出」や「愛知県スポーツ顕彰の授与」により、選手の技術・能力の向上やモチベーションの喚起等につなげてまいります。

「国民体育大会への選手派遣等」に向けては、「国民体育大会、全国障害者スポーツ大会などへの選手派遣」を行うとともに、１枚おめくりいただき 26 ページに移りまして、「国民体育大会等に向けた県代表選手の競技力向上」として、県スポーツ協会と連携し、県内の競技団体における選手強化に向けた取組を支援してまいります。また、「大会運営能力の向上」として、講演会の開催や資格取得への支援等を通じて人材育成を図るとともに、「スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上」を県スポーツ協会と連携して推進してまいります。

そして 27 ページ、進捗管理目標としては、「あいちトップアスリートアカデミーにおける育成数」や「県強化指定選手に対する補助件数」などを検討しております。

次に基本施策「Ⅳ　アジア・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」でございます。30 ページをご覧ください。「開催に向けた取組・機運の醸成」に向けては、「競技会場・選手村等の整備」として、市町村や競技団体と連携し、開催に向けた準備を着実に進めていくとともに、「テスト大会等を通した開催機運の醸成」として、テスト大会や県内各地で開催されるフラッグツアー等への参加を促進し、観戦意欲を喚起してまいります。また、「大会ボランティアの確保・育成」として、関係機関と連携し、専門知識を有する人材の確保に努めるとともに、大会後を見据えた運営体制の構築を検討してまいります。さらに、「大会の広報・ＰＲの推進」として、教育委員会と連携し、小中学生や高校生の興味・関心を喚起するとともに、大学との連携協定を活かし、大学生の大会運営等への積極的な参画を促してまいります。31 ページに移りまして、「大会を通じたＳＤＧｓへの貢献」として、大会への再生可能エネルギーや燃料電池自動車等の導入など、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「大会を活用した地域活性化」に向けては、「地域に根差したスポーツの推進」や「選手村後利用事業の推進」、「文化プログラムの活用」を進めるとともに、32 ページに移りまして「アジア各国との交流の推進」として、愛

知万博において実施した「一市町村一国フレンドシップ事業」を参考としたアジア各国との交流の推進や、「大会における「Made in AICHI」のショーケース化」として、大会を先端技術の実証実験の場として活用するなど、本県の産業技術の先進性や品質の高さをアジアに対して発信してまいります。さらに、「来訪者の受入環境の整備」を進めるとともに、「アジア大会のＰＲと併せた愛知・名古屋の魅力発信」により、国内外からの誘客につなげてまいります。

「共生社会の実現への貢献」に向けては、「多様性への理解促進」として、大会を国籍や文化、言語、宗教、ジェンダー、障害の有無など多様性への理解を改めて認識する機会とすることや、「競技会場等におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進」、また「外国人県民との相互理解の促進」として、事前イベントや大会運営への外国人県民の参画を促し、大会を通じた交流を促進してまいります。

進捗管理目標としては、「県内における新たな国際スポーツ大会の開催数」や「アジア競技大会に関連したアジア各国との交流件数」などを検討しております。

最後に、基本施策「Ｖ　スポーツによる地域活性化」でございます。36ページをご覧ください。「全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成」に向けた取組として、「あいちスポーツコミッションによるスポーツ大会の招致・育成」や「スポーツ大会の魅力向上、大会を活かした情報発信」を進めるとともに、「様々な地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進」として、本県ならではの地域資源を磨き上げるとともに、インバウンドニーズの高い武道ツーリズムの推進など、コンテンツの充実に向けた取組を進めてまいります。

37 ページに移りまして、「観光施策と連携した県内周遊性や来訪者の満足度向上」として、地域の産業や歴史・文化とスポーツを結び付け、周遊観光を促進するとともに、効果的な観光情報の発信により、ビジネス客等の取り込みを進めてまいります。

「スポーツの成長産業化」に向けては、「スタジアム・アリーナ整備・賑わい創出」として、2025 年夏の開業に向けて愛知県新体育館の整備を着実に進め、賑わいづくりや交流促進につなげてまいります。また、「デジタル技術を用いたスポーツの新たな価値の創出」として、愛知県新体育館において、先端技術とスポーツが融合した、「みる」スポーツにおける様々な付加価値を創出していくとともに、デジタル技術の活用を通じて県民のスポーツへの参画が促進されるよう、取組を進めてまいります。

1 枚おめくりいただき 38 ページに移りまして、「スポーツオープンイノベーションの推進」として、スポーツを利活用した新事業・新産業の創出に向けた取組を進めてまいります。

「スポーツチームとの連携・協働」に向けては、「チームの知名度・発信力を活かした社会課題への貢献」や「選手との交流や「みる」スポーツ機会の創出」により、県民のスポーツへの参加を促進するとともに、ファン層の拡大やシビック・プライドの醸成につなげてまいります。

進捗管理目標としては、「名古屋ウィメンズマラソンの県外・海外からの

出場者数」や「プロスポーツチーム等と連携した取組数」などを検討しております。

そして、39ページの「計画の推進」、40ページ以降の「参考資料」については、今後さらに記述を充実してまいりたいと考えております。

資料１の説明については以上となります。

次に資料２をご覧ください。これは、第２回策定委員会においていただいたご意見を踏まえ、次期計画の目指すべき姿と、各基本施策の関係について図で示したものでございます。各施策が連携し、好循環を生み出しながら、取組を進めていくことが必要と考えております。

次に資料３でございます。本日ご欠席の、髙橋委員と中嶋委員からいただいたご意見を整理いたしました。

髙橋委員からは、「あいちトップアスリートアカデミーの支援対象となる競技を増やし、選手の選択肢を増やしていくことが望ましい」や「競技団体の運営能力の向上に向けて、国際大会への派遣や実際に大会運営に携わることを通じて、経験値を上げていくことが必要」といったご意見をいただきました。

また、中嶋委員からは、「アジアパラ競技大会を通じて、人々の意識の変化や、競技施設等のバリアフリー化が進むことを期待している」や「障害者スポーツ指導者・支援者について、いかに継続的な活動を引き出していくのかを検討していく必要がある」といったご意見をいただきました。

続いて資料４をご覧ください。パブリック・コメントと、市町村・競技団体に対する意見照会の結果を整理したものです。

9月16日から10月15日までの30日間、骨子案についてパブリック・コメントを実施し、５名の方から、延べ９件のご意見をいただきました。また、市町村や競技団体からは、それぞれ２件ずつご意見をいただきました。ご意見の紹介については割愛しますが、ページ右側の「本県の考え方」欄に整理させていただいたとおり、可能な限り計画に反映する形で進めてまいりたいと考えております。

続いて資料５をご覧ください。スポーツに関する現状や課題等を把握するため、スポーツ関係団体へのヒアリングを実施しております。これまで、スポーツチームとの連携・協働の観点から、大同特殊鋼㈱フェニックス、また総合型地域スポーツクラブの質的向上や運動部活動の地域移行の観点から、NPO法人ウィル大口スポーツクラブに対し、ヒアリングを実施しました。

１枚おめくりいただきまして、大同特殊鋼㈱フェニックスからは、「ファン層の拡大には、いかに“ハンドボールをしたことがない人”に振り向いてもらえるかが重要」や「クラブチーム単体で努力してもなかなか難しいため、行政とタイアップして取り組んでいけると良い」といったご意見をいただきました。

１枚おめくりいただきまして、NPO法人ウィル大口スポーツクラブからは、「地域移行についての最大の課題は予算であり、指導者への謝金を今後どうしていくのかは全国的な課題」や「アジア大会は、開催後の施設の利活用や、開催を活かして何ができるのかといった点が問われるため、その

ための仕組みづくりが必要」といったご意見をいただきました。

最後に参考資料としまして、次期計画の素案の概要版をお配りしております。

長くなりましたが、本日の資料についてのご説明は以上となります。宜しくお願いします。

來田座長　ありがとうございました。それでは、ただいまから意見交換を行っていきたいと思いますけれども、先ほど申し上げましたように、最初は「施策の体系と具体的な取組の展開」に関してということになります。お一人ずつ、いつものようにご発言をいただきたいと思いますが、あまり長くなるといけませんので、ひとまずは２～３分くらいでまとめていただけると大変ありがたいかなと思います。

それでは五十音順で、井澤先生よろしくお願いします。

井澤委員　東海学園大学の井澤です。今日はオンラインで失礼させていただきます。

今ご説明いただいたとおり、かなり形としてまとまってきているかなという印象があります。私の興味・関心が地域スポーツのところですので、そこを重点的に拝見させていただきましたけれども、これまでの流れをさらに充実させていくというところが中心になるのかなと思っております。

内容としては、まさにこれをうまく進めていくことが、結果として地域スポーツの振興につながっていくのかなというところはあります。ただ、また後ほどになるかもしれませんが、進捗管理指標がどうしても人数を増やすことが中心となってしまっているので、この点が心配かなというところです。

一つの選択肢として、総合型地域スポーツクラブの会員数を増やすこともあるかもしれませんが、増やすことが中心になって、本当の意味でスポーツ振興へつなげていくところがその先の話になってしまう可能性もあると思います。目先の目標にとらわれないような政策になっていけばいいな、というのが今お話を聞いた上での率直な意見です。

來田座長　ありがとうございます。これについて何か皆さんの方からありますか。よろしいですか。

ご発言をいただいたとおり、指標についてはいつも悩むところでございますので、どういう項目が良いのかということと、その数字がデータとして取れるものなのかどうか、そのようなデータをできるだけコストを掛けずに分析していけるのかということもあります。その辺も踏まえて、またご意見をいただけるとありがたいなと思います。必要があれば、またコメントをいただければと思います。

それでは伊藤委員、お願いします。

伊藤委員　中京大学の伊藤です。私も画面越しで失礼いたします。

井澤委員からもご発言がありましたが、かなり形になってきたかなと思います。私の方は、スポーツによる地域活性化のところが専門になりますので、そこについて主にコメントさせていただければと思います。

前回の会議で、ビジネス客の取り込みも入れた方がいいのではないかという発言をしたところ、それを踏まえて「観光施策と連携した県内周遊性や来訪者の満足度向上」ということを入れていただいたので、非常にあり

がたいなと思います。

特に、今回はスポーツイベントに関する記述が多いなというところで、先週末に横浜で開催されたイベント学会という研究会に出席してきました。イベント関係者の方々から話を聞いて、貴重な声もあり面白かったです。私が一番感じたのが、“ただ単に楽しいからイベントを行うな”というメッセージがありまして、楽しいのは当たり前ですけれども、スポーツイベントが社会課題にどのように対応していけるのかというところをもう少し鮮明に出していかないと、來田座長からもご発言があったとおり、地域の方からの民意を得ることは難しくなるし、国内からの賛同を得ることは難しいのではないかと思います。ただ単に楽しいだけであれば、参加した人だけで終わってしまうため、その波をどのように社会に波及させていくのかというところが大切かなと思いました。

アジア競技大会・アジアパラ競技大会は、そういうところがしっかり出ているのですが、愛知県の他のスポーツイベントにおいても、社会課題に向けてそういったものを念頭に置いてイベントを開催しますというようなメッセージがもう少し出てくるといいのかなと思いました。全てのページに関わってきますが、ＳＤＧｓを前面に押し出していますので、その点との整合性にもつながっていくのかなとも思います。

また、イベント学会の基調講演で面白いと思った点が、“物語を意識しましょう”というところでした。歴史とか、そういうところだと思うのですけれども、“なぜ愛知県でそのスポーツイベントをするのか”というところを、過去の出来事などと結びつけてＰＲできると、愛知県においてスポーツイベントをする意味が出てくるのかなと思います。素案にも「武将のふるさと」といった記述もありましたけれども、もう少し、例えばラリージャパンであれば、イベントと愛知県のモノづくりが結び付きやすいと思いますが、そういったイベントがどんどん愛知県でも増えていけばいいのかなと思いました。

もう一点、「施策の方向性と具体的な取組」の一つ目の中項目として、「全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成」とあり、もちろん全国・世界レベルのスポーツ大会も重要ですが、ローカルな視点のスポーツイベントも大切だと思います。これは市区町村のレベルになってしまうかもしれませんが、愛知県としてローカルのスポーツ大会の育成とかも取り組んでいます、みたいなことがもう少し分かるといいのかなと思いました。

最後に全体のコメントになります。前回の「いきいきあいち スポーツプラン」は、すごくコンパクトにまとまっていて分かりやすいと思います。今回の基本理念は結構長いですよね。うまくキャッチコピーみたいなものができれば良いのかなと思いました。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。貴重なご指摘だったと思います。それでは大勝委員、お願いします。

大勝委員　基本施策「Ⅰ　多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」のところで、最初の中項目として「スポーツ人口の裾野拡大」があります。ここの順番がこれで良いのかと感じています。現状・課題のところで働く世代

や子育て世代へのアプローチが重要とありますので、ＳＮＳで情報発信することは大事だと思いますが、ＳＮＳは全体に関わっていくことで、情報発信を１番にするよりは、最初に親子のスポーツ機会の創出を出した方が良いと思いました。また、企業や団体と連携をしていくといった記述については、どう連携していくのか、その枠組が重要ではないかと思っています。“連携します”というだけではなかなか実現に結びつかないので、連携のあり方をどうしていくのか、どうすれば連携できるのかを考えていかなければならないと思いました。

また 14 ページの「地域のスポーツ環境の充実」「スポーツ施設の整備・充実」では、効率的な予約システムの構築も検討していく必要があると思います。県の施設では、大会などにより予約が埋まっており、県民が容易に使える状況にはないかもしれませんが、県民がうまく使えるシステムを検討していくことが必要だと思います。県でそのようなシステムが構築されれば、市区町村のスポーツ施設にも反映でき、様々な団体が使えるようになるのではないかと思います。

もう１つは、愛知県は企業が多い、モノづくりの県だと思います。特に 25 ページ「アスリートのキャリア形成に向けた支援」のところで、地元企業とうまく連携していけるような形ができると選手たちも安心して競技ができ、“セカンドキャリアも愛知県で”という循環ができるのではと思います。

最後に、20 ページの「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」に、「教員の指導力向上」という項目が入っています。今後、部活動を地域移行していこうというときに、果たしてここに教員の指導力というのを入れるべきか。教員については、やりたい人がやれるよう環境を整えていくべきだと思うのですが、ここにこの項目を入れると、教員がやらなければいけないというメッセージになるのではと思ったところです。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。具体的に細かいところを見ていただけたと思います。それでは、次に大竹委員お願いします。

大竹委員　名古屋商工会議所の大竹です。資料を事前にご提供いただいてありがとうございました。また、今日もご説明いただきありがとうございました。

商工会議所でございますと、企業という観点で、どんな言葉や表現が入っているのかということを拝見させていただきましたが、35 ページ以降、「Ⅴ　スポーツによる地域活性化」ということで、施策の方向性と具体的な取組に関して 36 ページ以降に記載をいただいております。色々な視点や角度から、様々な内容を盛り込んでいただいているなというふうに思っておりますが、その中でも、例えば 37 ページ「スポーツの成長産業化」というところで、現状、愛知県の産業においてスポーツの成長産業化のベースができ、さらにそれを伸ばしていくことができるのかどうかというと、現状は少し心許ないのかな、というふうに感じています。

具体的な記載で言えば、「スタジアム・アリーナの整備、賑わい創出」や、「デジタル技術を用いた」という表現ですとか、「スポーツオープンイノベーション」と書いていただいているのですが、スポーツがいきなり成長産

業となり、引っ張っていけるのかというと、まだまだかと思います。そういった中で、前回でもビジネスマッチングという言葉を申し上げましたが、もし可能であれば、商工会議所も県内の会議所や企業の販路拡大とか、ビジネスチャンスの創出ということを一生懸命取り組んでおりますので、スポーツという切り口で、例えばこんなサービスないですか、こんなものが作れませんか、という要望をバイヤーが出して、対応が可能な地元企業がそれにサプライヤーとして応募をしてもらえるような、そういう機会があるとスポーツが産業やビジネスとして地元企業にメリットがある形で取り込んでいけるのかなと思います。ぜひ、ビジネスマッチングによる産業の活性化という視点を盛り込んでいただけるとありがたいと思っています。

やはりスポーツと企業という部分で考えると、愛知県の長期計画ですので、やはり県内企業にメリットがある形で描かれるとより良いのかなと。どうしてもスポーツいうと東京中心、あるいは大阪とか、名古屋や愛知から離れて、大手企業が関わっているようなイメージがどうしてもあると思いますので、アジア競技大会・アジアパラ競技大会で地元企業はこの先、このようなメリットがあるということを打ち出せると、企業も関わりを持ってやっていけるのかなと思っています。

そういった意味で期待を込めて申し上げると、地元企業は今、ＳＤＧｓやカーボンニュートラル、ＤＸなど、先ほど社会課題というご発言もございましたけれども、こういったスポーツに関わる取組を企業が進めることで、それが企業価値を高めるものになる。それは大企業に限らず中小・小規模も含めて、そういうチャンスだということがメッセージとして打ち出せると良いのかなと感じております。

後半の数値目標のところで申し上げるべきかもしれませんが、大同特殊鋼㈱フェニックスさんから大変貴重な情報をいただいて、ありがたく思っております。先日、フェニックスの試合を初めて見に行ってきまして、企業広告がたくさんあるというわけではなかったのですが、試合は白熱したもので、非常に面白かったなと思いました。やはりこういった声はすごく大事ですし、プロ・アマを問わず、企業が関係しているチームはたくさんあると思います。そういった企業の皆さんの声を吸い上げる仕組みがあると良いのかなと感じた次第です。

以上です。

來田座長　ありがとうございました。具体的なご提案をいただいたと思います。

それでは田中委員、お願いします。

田中委員　名古屋グランパスの田中と申します。よろしくお願いいたします。名古屋グランパスでホームタウン活動をしております。

まず、プロスポーツといったところで重要になってくるのが、「Ｖ　スポーツによる地域活性化」と思っておりますが、その他にも運動部活動の地域移行、ここは非常に重要な地域課題ではないかと思っています。

運動部活動の地域移行については２点ありまして、１点目には、サッカーでいえばプロのコーチを指導者として派遣することが、最も子どもたちのスポーツ技術の高度化に資するものであると思っています。その中で、指導者の技術の向上と標準化がやはり重要だと思っています。ぜひ愛知県

にはプロスポーツチームもたくさんあり、またそこで指導しているコーチのノウハウを部活動指導員の方々に伝達することで、地域の課題の解決になれば良いと思っています。

２点目ですが、やはり指導者への謝金のところ、各自治体の助成金のみで賄うことは非常に難しいかと思っております。自治体とクラブ側では難しい部分ですね、そこを第三者的な関わり、そういったところの支援が必要なのではないかというふうに考えています。そのところで、例えば企業やスポンサー、企業版のふるさと納税などを活用して、地元のスポーツを支援していくといったことも考えられるのではないかと思っております。

次に「みる」スポーツの機会の創出というところで、グランパスの事例紹介となりますが、私達は、ファン化へのプロセスに沿ったマーケティングをしております。それは何かというと、ファンの方を非興味層、応援の興味層、そして来場層の３つの層に分類しています。その中で各部署の役割を決めて活動しています。例えば、私達のホームタウン活動で言いますと、非興味層、知っているけど興味がない方、興味はあるけれどもスタジアムへ行ったことがない方、先ほどフェニックスの話もありましたけれども、そういった方を初観戦につなげていく、そのプロセスが非常に重要かと思っています。ホームタウンの活動でいいますと、親子招待をはじめ、興味を持っていない方に少しでも興味を持ってもらうための施策を行っております。

また、親子招待については、顧客情報を取得することが非常に重要になっています。顧客情報を、例えばチケットグループやファンクラブといったところにつなげていくことを、ファン化へのプロセスといった形でやっております。愛知県も色々と取り組んでいらっしゃると思いますが、そういったデータベースを蓄積して、プラットフォームを作ることが非常に重要ではないかと思っています。県の取組を通じて、それがサッカーでつながったりとか、他のスポーツにつながったりとか、そういった愛知県としてのファン化へのプロセス、またそのコンテンツを作っていくということが非常に重要ではないかと思っています。

以上になります。

來田座長　ありがとうございます。ターゲットを広げるということはこれまでにも議論してきましたが、非興味層という例を出していただいたような、それぞれのターゲットの質を意識して考えるということはやっていなかったかなと思います。

特にスポーツ政策は、スポーツをしない人をどうやって巻き込んでいくのかが課題です。その辺りが何かうまく入っていくと良いかな、というふうに思いました。ありがとうございます。

では、寺田委員お願いします。

寺田委員　よろしくお願いします。今までの議論をとてもよくまとめてくださって、いい形の計画になっているなと思っております。ありがとうございます。

私の方からは、やはり障害者スポーツの推進というところを中心に発言させていただきたいのですけれども、まず今回、「あいちパラスポーツサポーター」といったところを打ち出して、パラスポーツを応援する人たちを

増やそうということですけど、現状は高齢化しています。それを打破しないといけないということで、やはり若い力がとても必要だと思っています。そのためにはスポーツとか教育系の大学生に関わっていただきたいです。県の施策と、大学がそれを受けていただいて、カリキュラムの中に積極的に学生たちがパラスポーツにも目を向けていけるような仕掛けを作っていただけると大変ありがたいと思います。

私のところは保育系の大学ですけれども、中心となるところがスポーツ系や教育系で、他の大学も例えば工学とか理系のところであっても、県が取り組んでいることに目を向けてもらって、学生を多角的に育てていくというか、そういったところに取り組んでもらえるといいなと思っています。

具体的なことを色々と考えたのですが、例えばあいちパラスポーツサポーターとして活躍した学生には、愛知県が認めた証明書などを渡すとともに、企業にも県の取組をしっかりと周知していくのはどうかと思います。就職活動の際の履歴書にも書き込めるもの、企業側も“この学生は、こういったことにしっかり取り組んだな”ということを認めるような、何かそういったものがあると学生も“ちょっとやってみようかな、就活に有利なのかな”というふうにも思ってくれるのではないかなと思います。

動機は色々でいいと思うのですが、例えばそういった動機であっても、実際にやってみたらすごく楽しくて、奥深いということが分かれば、また企業に入ってからもボランティアをやってみようとか、社会人になっても活動してみようという、そういうつながりができるのではないかと思っています。トヨタ自動車㈱には、入社３年以下の社員が色々なボランティアに行くという研修カリキュラムがあるようで、その中にスポーツも取り込まれています。これを参考に、大学生が社会に出る前に何かつながりを持つものができたらいいかなと思いました。

それからもう１つは子どものことですけれども、体力づくりは小学校から、というイメージがあるのですが、やはり幼少期からの体力づくりというところにも少しスポットを当てて、保育園や幼稚園での体を使った遊びを通して、スポーツが好きな子どもたちを育てる、その基盤になるように幼・保・小の連携をしっかりと進めていくことが必要かと思います。

文科省の教育指針も、子どもたちが健康的な生活を送ることができるよう、主体的に体を動かすことを推進していて、現在、幼稚園は、お稽古ごとをたくさん取り入れた、昭和からの流れを汲んだ取組方針をずっと守っている幼稚園と、文部科学省の方針を受けて、生き生きと子どもが主体的に色々な運動遊びをさせるという幼稚園と、二極化しているような気がします。子どもたちが体を動かすことが楽しいと理解し、そしてそれが小学校、中学校にも続いていくようにしていただくと良いと思いました。

最後となりますが、「Ⅲ　トップアスリートの育成、活躍支援」のところで、「スポーツ医・科学に基づく支援体制の充実」があります。これはとても大切なことで、トップアスリートの発掘育成の一部ではなくて、全体にかかることなのではないかと感じました。

もう１つは、パラアスリートも健常のアスリートも同等の立場で交流して、お互いの色々なトレーニング方法であるとか技術であるとか、そうい

ったことを学び合う視点が欠けているのではないかと思いました。現在、パラアスリートは、「パラリンピックブレイン」という本が出ているように、その特殊な身体ゆえにトレーニング方法などをすごく工夫していて、一人一人の個々の身体が違うということで、違うからこそどんなトレーニングが良いのかという、スポーツトレーニングの基盤となるところで様々な工夫をされています。そういったものは、健常のトップアスリートも学べることがとてもあると思うので、トップアスリートとパラアスリートが交流しながら、世界のアスリートたちを呼び込んで、技術を高めていくというようなイメージが持てるいいかなと思います。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。今、寺田先生がおっしゃったところというのは、既存のスポーツ組織の統括の仕組みと、それからパラリンピックの統括の仕組み等をうまく融合させなければいけないということで、おそらく、藤嶋委員は良くご存知だと思いますけれども、その辺りを解決するような文言にした方が良いかもしれないですよね。

いきなり一緒にやろうと言うと、パラの方から抵抗があったりとか、あるいは既存の一般のスポーツ組織の方から抵抗があったりとか、おそらく色々なことが起きうると思います。むしろ両者を融合させていくための組織基盤を作る方向に持っていくということもあるかもしれないとも思いました。表現ぶりは一緒にまた考えさせてください。

それでは平井委員、お願いします。

平井委員　本日いただきました資料の「Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実」のところで何点か意見を述べさせていただきたいと思います。

まず 17 ページでございます。丸の３つ目、４つ目のところで部活動、また地域移行のことについて書いていただきましたように、部活動のことをたくさん盛り込んでいただけたことは本当にありがたいと思っています。

その中で、４つ目のところに、「国において部活動の地域移行が議論され」という文脈のところでありますけれども、「学校の働き方改革等の観点から」というところで、これはあくまでも大人の事情によってこれが起こっているというふうにも受け止められかねないという印象を受けます。あくまでも少子化や多様化するニーズなどが大前提にあって、もう一つ、働き方改革も加わっているということですので、“上記の課題に加えて、学校の働き方改革の観点からも”というくらいの感覚になるのだろうな、という認識を持たせていただきました。

また、「部活動が有する教育的意義にも留意して、地域において持続可能で多様なスポーツ環境を整備していく必要がある」と書いていただいたことは、本当にありがたいと思います。ただ、学校という視点から「教育的意義」と書かれていますが、これを新しくリニューアルしていくことが相当困難で、“歯を食い縛るのが部活動だろう”、“スポーツというのは楽しいもので、部活動とは違うものだろう”という感覚はまだ根強くありますが、どっちを取るのと言われてもどうしようもないところですので、学校自体の部活動、特に中学校の部活動の価値を、このスポーツ推進計画をはじめ色々な所からリニューアルしていかなければならないということを強く感

じているところです。

続いて 20 ページのところでございます。先ほどもご指摘がありましたが、「教員の指導力の向上」については、今後５年間の中で部活動の業務がなくなってしまうかもしれませんので、ご一考いただけるとありがたいかと思います。その下、「部活動指導員の確保や人材バンクの設置による人材の充実」の１行目に「部活動総合指導員」という言葉がありますが、私も勉強不足で聞き慣れていない言葉ですけれども、部活動指導員とは違う概念の言葉なのか、その辺をまたご確認いただけるとありがたいなと思っております。

そして 21 ページのところで、先ほど申し上げたように教員の事情ということも確かにあるところですけれども、施策としては、やはり子どもの運動機会の確保という部分で進めてきたところでありますので、例えば 21 ページ１番目は高等学校の運動部活動についてでありまして、その３行目に、「中学校における運動部活動の地域移行の状況を適切に捉えながら、教員の負担軽減」という部分がございます。この「負担軽減」とかいうところは、切り離しておいた方がいいかな、という印象を持っております。例えば、「『部活動ガイドライン』の周知徹底」のところの中に、もう１つの目的として負担軽減と書くことも選択肢かなというところです。教員側の都合でこれをやらざるを得ないという書きぶりは避けておいた方が良いかなと感じているところです。

來田座長　確かにそうですよね。これまでの政策のひずみであるとか、おっしゃるとおりだと思います。ここはやはり再考していただいて、現実的にそういう課題はあるにしても、この施策をすることによって、教職員の負担も軽減されるし、それからより良いスポーツのあり方ができるんだ、という発想で書いていけたらいいかなと思います。ありがとうございました。

それでは藤嶋委員、お願いします。

藤嶋委員　愛知県スポーツ協会の藤嶋です。よろしくお願いいたします。私も読ませていただきまして、非常に全体的によくまとめていただいてありがたいなと思っております。スポーツ少年団との連携も、文字にはなっていないのですが、先ほどの説明の中で言葉としてはいただいたので、お話させていただいたところも汲み取っていただいているなと感じております。

ただ全体として、情報発信とか、新しい取組といったところが強く打ち出されていますが、既存の仕組み、例えばスポーツクラブや競技団体、地域団体といったようなところがあまり明記されていないというところもあります。私どもはそういう既存の団体の取りまとめ役みたいな役割がございますので、そういったところへの取組、働きかけも、今後記述が細かくなっていく中には入ってくるのかなと思っていますけれども、やはり基盤として大事なところだと思いますので、考えていただけるといいかなと思いました。

先ほど、寺田委員から障害者スポーツの話も出てきておりまして、私どもスポーツ協会でも、県からの委託事業で障害者と健常者のスポーツの交流をやらせていただいています。やはり障害者スポーツの振興に向けては、障害者スポーツを取りまとめる団体や組織の整備が非常に重要だろうなと

思っております。

それから 12 ページのところで、「ニュースポーツやマインドスポーツ等を推進」というところがありまして、マインドスポーツという言葉が出て、私も何だろうなというふうに思っていたのですが、e スポーツですとか、そういったものも含めて、スポーツの範囲が非常に広がってきているところがあります。そういったところの考え方といいますか、私は広げていくことがいけないというふうには思っておりませんので、広げていきながら、実際に体を動かすスポーツといかに関連付けていくのかというところを少し明確にしていただけるといいかなと思います。

ニュースポーツの方は実際に体を動かしたりしますので、当然スポーツの一環として、これまでも位置付けられてきた部分だろうとは思いますけれども、私も中学生に「e スポーツはスポーツですか」と聞かれたことがありまして、回答に窮したことがあります。日本スポーツ協会やスポーツ庁、あるいは県などがそういったものの取扱いを明確に示していただけると、私どもとしてもありがたいと思います。今後発展していく分野だろうと思いますので、非常に重要な部分ではないかなと思っています。

以上です。

來田座長　「マインドスポーツ」はどういう意味で使っておられますか。

事務局（山肥田課長）　アジア競技大会ですと、マインドスポーツが競技種目になっています。

來田座長　将棋とかそういうものですか。

事務局（山肥田課長）　そうですね。あとはチェスやビリヤードなどです。来年開催される予定の杭州大会では、e スポーツが正式競技になるということがあり、多分、一般的なスポーツに比べると、もう少し広い枠組の中で競技が行われているという状況があります。ですから、そこの部分をはっきり書いた方がいいのか、ただ、先ほどご発言があったように書きづらいところもあり、悩ましいところです。

参考までにお伝えしておきますと、少し前に、e スポーツの所管部署を尋ねる他県調査があり、その取りまとめ結果をいただきました。確認すると、やはりスポーツ系の部門が多く、次いでＩＴなどの産業部門、それから所管が未定と、大きく分けると３つに分かれています。産業部門が所管しているところは比較的熱心に e スポーツを検討しているところが多くて、逆にスポーツを所管しているところは“e スポーツはそもそもスポーツなのか”というところで立ち止まりがちで、あまり進んでいないという印象を受けました。そこの辺りを踏まえて、どういう方法が良いのかというところはまたお知恵をいただければと思います。

來田座長　スポーツ界の方でも定義は未だ固まっていないと思います。ですが、e スポーツといわれる分野の中で、キャラクターを殺傷するものとか、実際の戦場をモデルに作り込まれているものとか、明らかに暴力性の高いものについてはスポーツとすることはできないだろうとＩＯＣは判断しています。それは自分たちがこれまで大切にしてきたスポーツの価値にはそぐわないということを言っております。また、あえて「e スポーツ」という言葉を使わずに「バーチャルスポーツ」と表現していたりもします。どういう

流れになるかは未だ見えていないと思いますが、そういう暴力的なものとは切り離してデジタルの中でスポーツ的な活動が行われること、あるいはそれがスポーツにつながっていくことを押さえておいた方がいいと思います。そのため、ちょっと表現には気をつけておいた方がいいかな、というふうに思いますね。一方で書かないという選択肢もあるかとは思いますが、逆に何でもありと捉えられる可能性もあると思います。そこは少し調べて、表現を考えた方がいいですね。あるいは、注をつけるとかした方がいいかなと思います。

既存のネットワークのことは私も思っていたのですけれども、これまでのネットワークがどう活かされているのか、それをどう次の計画で活かすのかという文脈が確かにないので、とてももったいないと思います。それをちょっとどこかに入れることを検討した方がいいかなと思いました。

それでは古井委員、お願いします。

古井委員　愛知県高体連、本日は代理の出席ということで、古井と申します。よろしくお願いいたします。資料を読み込んできたつもりですけど、本当にここまで大変なご苦労であったと思いました。

特に参考資料の概要版は非常に見やすかったわけですけれども、高体連としまして、皆さんに知っておいてほしいことがあります。「今後の主なスポーツ関連の動き」の中で 2023 年から 2027 年までのスポーツイベントが整理されていますが、世界規模ではないのですが、高体連としましては、アジア競技大会の２年後、2028 年に東海ブロックがインターハイを担当することになっております。主管県が愛知県になりますので、アジア競技大会等で使った施設などは、有効活用させていただくことになるかと思います。

また、素案には教員の研修、指導者の研修という記載もありましたが、2025 年には全国高体連の指導者を対象とした全国研究大会、そして 2029 年には保健体育の関係ですけれども、全国の学体連の研究大会ということで指導者の資質向上を図る大会が、愛知で行われるという流れもあります。インターハイは単独県での開催が非常に負担だということで、ここ 10 年くらい前からブロック開催ということになりました。東海ブロックの 4 県で分担して進めていきますが、何といっても 2028 年のインターハイは愛知県が主管県となりますので、ぜひ覚えておいていただいて、ご支援の方よろしくお願いしたいと思います。

その中で特に、30 ページのところに「簡素で質素、機能的で合理的な大会」との記載があります。スポーツはお金がかかるものでありまして、特にインターハイですと、総合開会式というものがあります。半日程度の式典となりますが、そのイベントに一番お金がかかっております。過去の大会データを調べますと、約２億くらいかかるということです。全国高体連からは“なるべく質素に”ということは言われますが、担当する県はプライドがあるのか、本当に派手に取り組んでいます。最近では、音響だとか映像を駆使した、まるでショーを見るような素晴らしい開会式になっております。ぜひ、愛知県高体連としてはアジア競技大会での運営、特に開会式を参考にして、できるだけ質素に、その上で感動を与えるようなイベン

トとなるようにしたいと考えております。そういった意味で注目していますので、ぜひよろしくお願いしたいと思っております。

併せまして、少し戻りますけれども 17 ページ「Ⅱ　子どものスポーツ活動の充実」の〇の５番目のところです。当然のことながらスポーツが好きな子どもを増やしていくことは大前提になるかとは思いますが、いわゆるバーンアウト、燃え尽き症候群、やらせ過ぎといったところにも配慮していく必要があるのではないかと思っています。

この間、駒澤大学陸上競技部の大八木監督のインタビューを TV で拝見しまして、“もう以前のように学生を指導するといったスタイルではなかなか通用しなくなった。選手にどうあるべきかを気付かせることをしていかなければいけない”と仰っていました。どうも教員や指導者は“教えたい・教えなければならない”という気持ちがありますけれども、バーンアウトを防ぐためにも、選手の自主性を尊重しつつ寄り添っていくという体制が必要ではないかとつくづく感じました。

それから 20 ページ「持続的な運動部活動の推進」ということで、県立学校は統廃合、そして部員不足が進行しており、単独チームで出場できない学校がたくさんあります。全国高体連も、今までは統廃合に関する学校であれば合同チームでも全国大会に出場できるという整理をしておりました。一方で勝利至上主義を懸念して、部員不足の学校同士で合同チームを組むことはできないとしていました。しかし来年度からは一定の制限を残しつつも、全ての合同チームが大会に出場できるということで検討が進んでいます。参考までにご紹介させていただきます。

また、21 ページの進捗管理指標については、先ほどもご意見があったかと思いますが、これは例として挙げてあるかとは思いますが、3 つ目の「県立高校における部活動指導員の配置数」についてです。これはどの学校もみんな欲しいわけで、予算があればいくらでも増えると思います。ぜひ教育委員会の方で予算確保に向けて対応していただきたいと思っております。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。具体的に反映できることをご発言いただいたと思っています。ちなみに、部活動の地域移行というのが行われると、既存の高体連を担ってきた人々、あるいは中体連を担ってきた人々も変わるということですよね。

古井委員　まず、中学校が整備されてから高校へという形で移行されていきますので、指導者はそういった流れを感じつつ対応していくことが必要であると思います。高体連としては学校対抗といったところに結構こだわりがあります。したがって、その点を踏まえどのように全国大会につなげていくかというのは、今後の全国高体連での検討課題だと思っております。

來田座長　平井委員からもご発言がありましたが、教育機関の中で行うスポーツと地域のスポーツ等を分断してはいけないし、そこに共通する価値があるということの一方で、担い手は違うので、その辺をどううまく作っていくかというのは、かなり大きな課題だなというふうにお伺いして思いました。その辺りの課題感は、まだちょっとこの政策文書には出せないですね。少

し様子を見てからとも思います。

それでは、淀川委員お願いします。

淀川委員　淀川でございます。よろしくお願いいたします。私は地域のことをやっていますけど、あまり大きなことは分からないので、本当に地域で活動していることだけお話させていただきます。

新型コロナにより、ほとんどのイベントが中止になっていた中、昨日ウォーキング大会を行うことができました。規模を縮小しながらも、無事に終わったのですけれども、12 月にもまたレクリエーションバレーボールの大会を学区で行うのですが、やはりチームを組んで実施する競技ですので、練習日を設けたり人集めをしたり、今ちょっと人集めが大変ですけども。やはり、スポーツの実施率を見ると 30 代や 40 代の方がやはり低いですね。若い人のスポーツ離れの影響が多きく、なかなか人が集められないのですけれども、地域の活性化のためには、やはり若い人たちと子どもたちが中心になって、スポーツを続けていける環境づくりが必要なのではないでしょうか。

それと、また子どもの頃からの運動の習慣を身につけることも大事だと思います。加えて、運動部活動の地域移行について、地域の実情や家庭の事情により、子どもたちの運動機会が失われることがないようにしっかりと対策をお願いしたいと思います。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。格差とか、そうしたものにどう対応していくかということが、この中に入っているということが望ましいと思いますし、それが地域をつなぐ力にもなっていくということを意識した文章にするように、とのご指摘かなと思います。

ありがとうございました。一巡したのですが、私の方からもいくつか、委員からのご発言がなかった事柄について、少し追加をさせて意見をさせていただきたいと思います。

例えば、愛知県の場合は、スポーツ推進審議会で、毎年モニタリングをするということになっているかと思うのですが、例えば伊藤委員からご発言があったような、ＳＤＧｓとの関わりとか社会課題との関わりみたいなもので、“今年度はこうしたものを目標にキャンペーンをしていこう”と打ち出していくことも有効だと思います。海外では、スポーツを社会課題解決のためのキャンペーンを共有する場として政策的に使っている面もあります。そうした視点も含めて、既存の組織と既存のモニタリングの機能をどう使うのかという部分が見えていないので、それを表現するような文言を入れた方が良いかなと思いました。スポーツ協会との関係なども、そこに加えていくと良いかなということです。

それから、それぞれのページにＳＤＧｓのロゴを貼っていただいているのですが、このロゴに関係する具体的政策はこれですね、ということを照合していただいているでしょうか。つまり、ないものがあるのではないかというふうに私は思うわけです。並べたロゴがどの施策と関連しているのか、ということのチェックをしていただく必要があると思うのです。例えば、「ジェンダー平等を実現しよう」は、ロゴが入っているのに具体的な施

策が全然見当たりません。これは、私がこの分野の専門だから余計に気が付くのかもしれないですけれども、入れることができていないものがあるなと。逆に、子どものスポーツ活動の充実のほうでは、ロゴは３つ上がっているけれど、こうして具体的に並んでいる施策をみると、この３つのロゴでいいのかという、逆照射も必要ですね。このようなチェックをしっかりとしておかないと、ロゴだけが独り歩きしていくようなことになりはしないかな、ということを若干懸念します。ぜひご確認、そして不足していれば、表現を追加するということをしていただきたいかなと思います。

それから、指標の検討と関係しますが、それぞれの施策を一体どこが担当部署としてやっていく想定なのかということです。海外の政策文書は国のレベルでも、それから市町村のレベルでも、どこの部署が責任を持ちます、ということを書いています。これがないと指標も作れないというのがおそらく道筋だろうと思うので、想定されている担当部署はどこなのかということを明記してはどうでしょうか。そうでないと、実際に走り始めたときに行政の皆さんもきっとお困りになるだろうというふうに思うので、一覧にしていただいた方が良いかなということです。

これ以外にも、他の方々の意見を聞いて、これが足りないということがあれば、ぜひここでお伺いしたいと思いますけれども、どうでしょうか。オンラインの先生方どうでしょうか。追加でご意見等よろしいですか。

大勝委員お願いします。

大勝委員　大学生を活用したボランティアのところでは、機運を醸成していくことは最初のきっかけとしては良いと思うのですが、計画性をもってやっていくことが必要だと思います。大会前年の 2025 年に急に大学側に要請したとしてもおそらく無理なことが多いと思うので、2023 年度からでも順序立ててやっていくことが必要だと思います。大学側も、急に要請されても対応できないと、拒否反応を示す可能性もあると思いますので。また、学生は参加したいと思っていても、授業があると結局参加できない状況になります。その辺りの調整も計画立ててやっていかないと、うまく活用できないのではと懸念しています。

以上です。

來田座長　その辺はどうでしょうか。

事務局（アジア・アジアパラ競技大会推進課長）　アジア・アジアパラ競技大会に向けてのボランティアのところですね。大会まで４年ということですので、来年度から本格的に全体像、どれぐらいのボリューム感だとか、どういうふうな体制でやっていけるのかというところもしっかりと詰めていきながら、一方でお話ありました、大学連携、これは県内の各市町村からも大学連携をしっかりとやっていくようにというご意見を頂戴していますので、そこは両大会を見据えながら、４年間かけて充実させていきたいというふうに思っております。

來田座長　ありがとうございます。大学連携については東京大会のレガシー組織ができているので、実は私も担当しているのですけれども、そういう全国のネットワーク、既存のネットワークもうまく使いながら、県内大学との関係を密にするというやり方が良いかもしれないですね。ボランティアを育成するだけではなくて、ボランティアの組織をどのようにレガシーとして

残すのかというところまで計画の中で踏み込んでおくと良いと思います。

他にどの辺りが気になりますか。

大勝委員　31ページの「大学生の大会運営等への積極的な参画を引き出していく」の部分です。寺田委員からご発言があったとおり、アジア・アジアパラ競技大会だけではなく、大会後も活動が継続するよう県内の大学で人材が育成されていけば良いと思います。また、資格に関係する話ですが、学生は資格を取った後、社会人になってそれを活かす機会がなく、ほとんど活かされていない状況にあると思います。障害者スポーツ指導者の資格についても、本学でも取得している学生がいますが、結局卒業してそれを活かせているのかというとそう多くはありません。また、学生の間もなかなか活かすことはできていない状況です。活かすことができる場所を知らないこともあると思いますが、特に体育系の様々な資格を持つ学生の活躍の場、活動できる場所を競技団体などと連携して創出できれば、学生のニーズを拾うこともでき、学生と競技団体がお互いにウィンウィンの関係になるのではないかと思います。

以上です。

來田座長　確かにそうですね。30ページの辺りですね、ここが“これからやります”で終わっているので、もう少し長い視点で書きましょうということですね。認定証はできると良いですけど、既存の資格との関係性とかも検討する必要もありますので、これはこれで１つの大きな事業になるかもわからないですね。

他によろしいでしょうか。良いですか。

それでは、今の議論を踏まえて次にいきたいと思うのですけれども、２巡目は進捗管理目標、それから資料２に示された構成イメージについてのご意見をいただきます。それぞれのページの最後に、項目ごとに指標のアイディアを書いていただいているという状態です。ここを膨らませていきたいということかと思います。

それでは、また井澤委員からお願いできますでしょうか

井澤委員　先ほどお示しいただいた進捗管理指標についてですけれども、まず資料の９ページ、今回の計画の大枠での達成目標のところですけれども、冒頭お話させてもらったように、参加者数とか人数の指標が中心になっていて、それは非常に見ている側も分かりやすいですけれども、参加する人数を目標値として、それを達成すればいいのかというところが今回の計画と整合しているのかどうかを考えたとき、なかなかスポーツだけでその目標が達成できたかどうかというのは非常に難しいところです。例えば県民の主観的幸福感の値がどう変わっていったかとかですね、後半の地域活性化のところでシビック・プライドというキーワードが出ていますので、県民がスポーツに関わることでシビック・プライドがどう変わっていくのかという、心理的な部分も目標に入れてもいいのかなと個人的には感じています。繰り返しになりますけれども、なかなかスポーツでこういうものが高まるわけではないので、一概にどうかという議論が必要になりますけれども、人数だけではなくて、そういうことも入れても良いのかなと思っています。

もう１点、私の専門のところで「地域のスポーツ環境の充実」のところ

ですけれども、14ページに進捗管理指標で、ここも件数、人数、特に総合型クラブの会員数を目標値にするのはどうかなと感じています。例えば地域スポーツ環境の充実というところを前提に考えると、ここに書いてあるように、登録・認証制度の活用で、登録クラブ数であるとか、その先の認証されたクラブの数を１つの目標値に設定すると、この登録・認証制度の運用の是非にも関わってくるのかなと思っています。総合型クラブのメンバーの方に話を伺うと、登録・認証制度の仕組は分かるけれども、やる意味がよく分からないとか、登録する、認証を受けるということの作業の煩雑さ以上のメリットを感じないという言葉をよく聞くので、例えば県として登録や認証の支援を行うことで、登録を受けたクラブは質が一定数担保されたと考えるのであれば、例えばそこで地域部活動の受け皿として県が推奨していくとか、そういう仕組み的な話にもつながってくるのですが、そういったところを目標値にしても良いかなと思います。

もう１点は、環境の充実という意味では、例えば総合型クラブの話ばかりで恐縮ですが、認知度の向上とかクラブの質という意味では、アシスタントマネジャーやクラブマネジャーの資格取得者を各クラブで最低でも１人ずつ配置できるように支援していくとかですね。クラブ数を増やすとか、会員数を増やすということも重要ですが、そもそも地域スポーツの担い手としての基盤がしっかり形成されているかというところをもう一度見直すという意味でも、今回の計画でそういう目標設定にしてもいいのかなと個人的には感じています。

別途、今資料を見て気付いたのが、資料４のパブリック・コメントの意見の６番のところで、「スポーツ系大学には「健康運動指導士」の資格」と書いてあるのですけれども、子どものスポーツ指導とか部活動指導ではちょっとあまり直接関係がないのかなというところで、どうなのかなというところが気になりました。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。それについては、「本県の考え方」のところで「参考としてまいります」というふうにしていただいており、あくまで「取り組みます」とは書いてないので大丈夫かなと思います。

井澤委員からは数字目標のところで、これでいいのかなという疑問をいただきました。

それでは、次に伊藤委員、お願いできますでしょうか。

伊藤委員　はい、まず９ページのＫＰＩですけれども、井澤先生がおっしゃられることはよく分かります。ただ、全体的に見て目指すべき姿と、この項目が１つずつリンクしているので、分かりやすいといえば分かりやすいかなというのが私の印象です。２つ目の国際大会に出場するというところで、国際大会の注釈でオリンピック・パラリンピック、アジア競技大会・アジアパラ競技大会というふうに書いてあるのですが、この中に含まれないスポーツの日本代表の方もいらっしゃると思いますので、あまりオリ・パラとかアジア・アジアパラに無理に縛られなくてもいいのかなと思いました。それ以外のスポーツ種目の日本代表も応援しているというところが分かると、もっとスポーツが盛り上がっていいのかなと思います。

あとは地域活性化のところでですね。最後の方の38ページ、こちらの進捗管理指標ですけれども、全体とは別に、例えばスポーツの成長産業化に関わる指標が入っていないですよね。取組には成長産業化を挙げているのですが、どういう効果を図るのかというところも考えなければいけないというところで、先ほど大竹委員がおっしゃられたビジネスマッチングは、すごくいいアイディアだと思います。これのマッチングをした数とか、それでうまく軌道に乗った数とか、そういったものをＫＰＩに入れていくのは、すごく分かりやすくて良いのかな、というふうに思いました。

あとは田中委員もおっしゃられたとおりですね、やはりデータベースというのは大切になると思います。あいちスポーツコミッションのホームページを見ると、結構スポーツコミッションは、私のイメージではスポーツ合宿とか、そういったものの誘致にかなり力を入れているというイメージがあってですね、例えば名古屋グランパスや中日ドラゴンズとか他のプロスポーツチームをつないでいるというイメージをあまり持っていないです。その辺りをもう少しデータを整理していただいて、あいちスポーツコミッションのホームページとかでうまく打ち出していただいて、アクセス数とかですね、そういったものをＫＰＩに入れていくといいのかなと思いました。

あと、これがいいのかどうか分からないのですけれども、ＫＰＩの１つ目、名古屋ウィメンズマラソンという１つの大会だけに特化したＫＰＩがありますね。愛知県で色々と取り組んでいる中で、１つの大会だけに絞ってＫＰＩを立てることについては、私は懐疑的な意見です。

以上です。

來田座長　ありがとうございました。うまく反映できそうな数値もあるけれども、そうではないものもあるので精査した方が良いということかなと思います。

続いて大勝委員お願いします。

大勝委員　やはり最初、「ウェブサイトのアクセス件数」について、それが拡大したかどうかを指標にして良いのかと思っています。親子で楽しめるスポーツ機会では、例えば親子で参加できるスポーツイベントの開催件数とか、そのような指標を用いた方が良いのかと思います。

スポーツ実施率は、それぞれ年代別で出てくるとは思うので、具体的に「子育て世代に限定したもの」を示し、本県としてそれを推進していることを明確に打ち出してもよいのかと感じました。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。数値が出ているけれども、その数字に意味が読み取れないものは結構あると思います。そういうものを使うのは、返ってエネルギーの無駄遣いになるので、そういうのは落としていくという方向で良いのかな、というふうに思います。

ぜひこういうことは企業の方々にお伺いすると良い案がいただけるのではないでしょうか。それでは大竹委員、お願いします。

大竹委員　名古屋商工会議所の大竹でございます。資料38ページの進捗管理指標のところで発言をさせていただきます。先ほど伊藤委員からご発言があった

ように、私もウィメンズマラソンが非常に重要な大きなイベントであることは認識しつつも、１つの事業名がここで出てきて、出場者数がＫＰＩとして出てくるのはちょっと引っかかるなと思いますので、ご検討いただければありがたいと思います。

大会の開催数とかプロスポーツチームと連携した取組数については、見ておきたいなとは思いますけれども、それ以外のところでですね、35 ページにも記載がございますけれども、「域外から人を呼び込み、交流人口・関係人口の増加」という表現がある一方で、指標のところに何もそういうものがない。これから検討されるのかもしれませんが、スポーツに関係することで、愛知県に来られた方がどれくらいで、それをどのくらいまで引き上げていきたいのかということがあると良いのかなと思います。スポーツを実際に「する」こと以外にも、ツーリズムで来ていただくこともあると思います。繰り返しになりますが、スポーツに関係することで愛知県に来られた方の数みたいなところがあるとありがたいなと思います。

それから、これも 35 ページに書いてあります「周辺産業への経済波及効果を生み出していく」という表現がございますけれども、これも進捗管理指標として、いわゆる経済効果のあるものをどういうふうにもっていきたいのかというところが、もちろん伸びていくのが一番良いですけれども、一次的な効果や二次的な効果など色々とあると思うのですが、そのような指標も入れていただけると良いのかなと思います。

さらに、企業チームのことを申し上げて恐縮ですけれども、やはり愛知県内に素晴らしい企業チームもたくさんあるので、今どのくらいあって、減っては困りますから、維持・強化される方向で、ということだと思うのですけれども、認識として持っておかないといけない数字なのかなと思っております。

それから最後に１点。進捗管理指標ではないですけれども、ちょっと気になったところで。7 ページをご覧いただくと、ここの主なスポーツ関連の動きということで、その他になっているのですが、「ＳＤＧｓの達成」「リニア中央新幹線の開業」「中部国際空港の機能強化」については、それぞれそのとおりかなと思うのですけれども、私自身が危機感を持っておりますのは、やはり 2025 年の大阪・関西万博、これは日本として成功した万博となることはもちろん願っているのですが、アジア競技大会の前に行われる大型のイベントということで、企業や関係者のエネルギーがそちらにガーッといってしまってですね、愛知県が取り残されると非常に怖いなということもあります。それをプラスに捉えて、大阪・関西万博に来られた国内・海外の方を当地域に引っ張ってくるぐらいのつもりでいないと、ツーリズムとかイノベーションとかはできないと思うので、押さえておかなければいけない大きなイベントなのかなと思っております。

幸い今月にジブリパークがオープンしましたので、これからインバウンドが大きく復活してくれれば、特にアジアからですね、あるいは欧米から観光客が日本に大勢来られれば、ぜひ立ち寄っていただきたいなと思います。気になったこととして申し上げておきます。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。スポーツ関連で県内に来られた方を測るということと、ジブリパークを見に来たけれども、スポーツもしたというパターンもあり得るわけですよね。こういうのを測定できるのですか。

大竹委員　観光入込客数に関する統計があるものですから、押さえていく必要があると思います。

來田座長　必要ということですね。

事務局（山肥田課長）　県外とか海外から来た人というのは、県が主催として関わっている大会であれば、比較的はっきりと把握がしやすくて、エントリーの時にある程度どこから来ているのかということが分かります。ウィメンズマラソンや、あるいはアイアンマンといった大会なども報告書の中に数字が出てきますし、奥三河パワートレイルも出ていると思いますので、そういうものは比較的分かりやすいと思います。ただ、他のところだと、なかなか明確に捕捉ができないので、どうやって調査をしようかと悩んでいるというのと、観光客が実際どういうふうに、どこに寄って何をしたのかということは、確か観光担当局がアンケート調査をやっていて、特に海外の人にアンケートをしていると思います。実際どのような統計が取れるのかというのは担当局と一度相談してみたいと思います。

來田座長　県が関係しているところで調査をしようとすると、そのための調査のお金もかかるし、どの観点から検討していけばよいのか分からない、多分そういう悩ましい状態に入っているように思うのですね。やはり、政策の中のステークホルダーにモニタリングをしてもらうというふうなことをあらかじめやっておいて、それを経年的に積み上げていく方がいいと思うのですね。県がお金を出して調査するということではなくて、あまり手間のかからない形で、モニタリング結果が上がってくるような指標が良いのかなと思います。

事務局（山肥田課長）　おっしゃるとおりだなと思っています。先ほどのご意見として伺った中で、国際大会への出場者数でオリンピックとパラリンピック、アジア競技大会とアジアパラ競技大会に限定していたのですけれども、これも実は捕捉のしやすさで、オリンピック・パラリンピックに出場している愛知ゆかりの選手というのは、担当者が全て確認しているため、比較的捕捉しやすいですね。ただ、国際大会となると、本当に色々な大会が競技ごとにあり、莫大な数になると思うので、ステークホルダーとなる競技団体の方々に確認をしながら進めないといけないということになろうかと思います。その辺の進め方も含めて考えたいと思います。

來田座長　ありがとうございます。

それでは田中委員、お願いします。

田中委員　私からは、38ページ「スポーツチームとの連携・協働」のＫＰＩになります。先ほども少しお伝えしましたけれども、グランパスの方でも「Ｊリーグ ＩＤ」について、毎年27万人というＫＰＩを設定して、それを各部署でそこにつなげる活動をしています。そういったところも含めて、こういったデータベースのところのＫＰＩを立てるということは、少し愛知県としても必要なのではないかというふうに考えております。

もう１つ、先ほど１巡目のところで発言し忘れましたが、12ページのと

ころ「スポーツ人口の裾野拡大」のところで、ＳＮＳを活用した情報発信、いかに知らない人に知っていただくかというのは、ＳＮＳの非常に重要な役割だと思っております。Twitter でいいますと、44 万人のフォロワーがおります。こういったフォロワーを増やしていくことが非常に重要かと思っています。16 ページのＫＰＩのところでいいますと、やはりＷｅｂサイトのアクセス件数とかはありますが、ＳＮＳも、Twitter とか、Facebook、Instagram なども件数に入れてくのは重要なのではないかと思っています。やはり若者は、こういったＳＮＳを活用することが多いものですから、Web サイト以外のＳＮＳというところも入れていくことが必要ではないかと考えています。

以上です。

來田座長　はい、ありがとうございます。ＳＮＳで発信すると言っているのに発信した回数は指標に入っていないですね。そういうものも入れておくと良いかなと思います。

それでは次に寺田委員、お願いします。

寺田委員　16 ページですけれども、「あいちパラスポーツサポーター養成研修参加者数」は、サポートする側に比重が置かれていて、私としては目立つなと思っています。サポート者が増えた結果、障害のある方で新しくスポーツに参加する人がどのくらい出てくるのかという、この並行した視点が指標の中に視覚化されると良いかなと思います。サポートをする人が増えても、同じ人が色々なところに参加して、固定した人しか障害者スポーツに参加しないということがないように、取組が進むことで、当事者たちが新たに参加できるというところを視覚化できるといいかなと思いました。

もう一つ、資料２で構成イメージをすごく分かりやすい図式で作成していただきましたが、半分より下のところに四角の枠が大きく２つあって、左側の「多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」というところの枠の中に「子どものスポーツ活動の充実」があり、その上に「トップアスリートの育成」があるという形になっているのですが、「多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」の上に、トップアスリートと子どもが並列に並んでいて、トップアスリートと子どもの矢印が両方に向いているというような、そのような図式の方が良いのかなと思いました。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。そうですね、寺田先生に言われて思いましたけど、確かにこれは結構古い形の、70 年代、80 年代くらいの、スポーツの裾野を広げてトップアスリートをつくろうという形に見えてしまうので、今のご発言のとおり横並列の方が良いかもしれないですね。

それでは平井委員、お願いします。

平井委員　21 ページの進捗管理指標について意見を述べさせていただきます。現在、ここに載せていただいているものの、上 2 つにつきましては、おそらく「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、すぐに調べられる指標かなと思っております。今回の計画の中では、体力低下ということよりも、どちらかというと部活動が地域スポーツの方へシフトされていくという流れに重点が置かれていると感じるものですから、それの指標がやはり

必要になってくるのではないかということは感じました。ではその指標がすぐに取れるのかどうかと言えば、ちょっと自分も「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の中にそのような情報があったかどうかは定かではありませんが、必要になってくるのは、地域スポーツ団体等に参加しているかどうかという指標になってくるのかなということは思っております。抽出の調査になるかもしれませんけれども、その辺の情報がここを反映する評価指標になる可能性が高いのかな、と思いました。

また 3 つ目「県立高校における部活動指導員の配置数」ということを書いてございますけれども、市町村の方でも、予算について県の方から補助をいただいているわけですので、多分簡単に数値は出せるのかなと思います。今後、市町村でも予算の都合がつけば増えてくると思いますので、プラスの方でお示しできる数値になりうるかなと思っております。ただ、部活動指導員といったとき、多分これは運動部活動ということになってきて、今後文化部の部活動指導員も検討されていくのではないかと思いますので、分かるようにしていただけた方が良いかなと思いました。

以上です。

來田座長　ありがとうございます。そうですね、運動部活動と書いていただいた方が良いですね。あと、地域で学校の生徒たちの指導に携わった指導者の数とか、そういうものは要らないですか。受け皿となる基盤がどういうふうに広がっていくのかということがないと、進捗状況の把握や、次に何をすればいいかどうかが見えないのかなと思ったのですけれども。

平井委員　取りたいとは思いますけれども、例えばそれを兼職兼業でやっていった場合、服務の問題とか色々な難しい問題が生じてまいりまして。ここの指標として適切な数字が出せるかどうか、現時点では５年先のところまで見通しが持てないところでございます。

來田座長　研究者の調査に委ねられている感じですね。ありがとうございます。

それでは次に、藤嶋委員お願いします。

藤嶋委員　16 ページのところ、「総合型地域スポーツクラブの会員数」と取り上げていただきましてありがとうございます。なかなか、登録・認証制度の登録数については難しいところかな、というふうに思うのですが、今後検討していただければと思っています。それから、27 ページ「県強化指定選手に対する補助件数」とあるのですが、これはもう、件数は指定していますよね。今 250 人とかですね。金額の差で多少違ってくるだけなので、これが指標になるかというと、これは予算次第という話になってくるので、これが指標に入ってくるのはどうなのかな、というのを少し感じました。

それから 33 ページ、他のところにもあったような気がしますが、「県内における新たな国際スポーツ大会の開催数」とありますけど、先ほども古井委員から、今後のスポーツ大会の開催という話もありましたけれども、国際スポーツ大会は結構先の段階まで決まってきている可能性が高いという印象があるので、５年間の指標として馴染むのかどうかは検討の余地があると思いました。

以上です。

來田座長　はい、ありがとうございます。そうですね、やはり何人かの方の話を聞

いていて思うのは、永遠に増やし続けることは難しいということです。そもそも、そういうタイプの数字が含まれてしまっています。会員数とか、国際大会の開催数とか。永遠に数字を増やしていかざるを得ないような数値を評価軸にしてしまうと、どんどんみんなで苦しくなっていくのではないかなと思いますね。もっと現実的に、より良くできる数字を置く必要があります。何でこういう数字は入ってないんだと、もしかしたら県民から叱られるかもしれないけれども、そこを説明して、めざすべき方向を一緒に考えていける方が良いような気もしますね。ありがとうございます。

それでは古井委員、お願いします。

古井委員　先ほど申し上げた進捗管理指標については、部活動指導員の人数については学校としてはたくさん指導者が欲しいということですので、予算の確保をよろしくお願いしたいと思います。

それで資料２、先ほどもご発言がありましたが、資料のイメージ図は非常に分かりやすいと思うのですけれども、まず上の２つの大きな四角というんですかね、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのまとまりから Ⅴの方に矢印が向いていますが、これは相互に関係するようなイメージがあるので、両方向に矢印が向くような形にしてもいいのではないかと感じました。また、５つの柱のもとに進めていくということで、先ほど説明があったわけですけれども、私のイメージですと、やはり順序としてⅠがあって、その上にⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと進んでいく形の方がよいかと思います。全く知らない人がぱっと見たときにⅣが起点になるよりⅠが起点となっていた方が流れとしてすっきりするのではないかと思いました。

あとは、個人的なつぶやきですけれども、最近本当にいろんなイベントが再開されるようになり嬉しく思っています。特にこの時期ですと、マラソン大会が復活しており、主催者側も色々と感染症対策を図りながらやっているわけですが、以前と比べ参加料が高くなったというイメージがあります。色々な理由があると思うのですけれど、昔は１キロ 100 円の時代、すなわち 10 キロレースであれば大体 1,000 円～1500 円くらい、フルマラソンであれば 4,500 円～5,000 円くらいでした。今では非常に高くなって、参加するためのハードルが高くなったと思います。それでも出たいという人は多いのですよね。その辺、価格の問題、規模の問題、親子連れで参加する場合は安くするとかですね、そういった点も色々と検討していただくと、もっと気軽に参加しやすくなって県民の健康度のアップが期待できるのではと思っております。

以上です。

來田座長　ありがとうございました。構成イメージの方は、もう少し考える必要があるかもしれないですね。マラソンの参加料が高くなった件はこの間もニュースにもなっていましたね。すごく高くなっているということでした。ありがとうございます。

それでは、淀川委員お願いします。

淀川委員　私自身がもう高齢者なのですけれども、13 ページに「高齢者の生きがいづくり支援」というのがありますが、ねんりんピックに私も３回ほど出させていただいて。すごく楽しい思いをしてきましたね。これもずっと続け

ていただきたいな、とは思います。

またですね、私のつぶやきですけど、スポーツ推進のなり手がいなくて、世代交代がなかなかできていないので、どうにかその辺、また確保していただくような対策を取っていただけるといいかなと思います。

以上です。

來田座長　そうですね。地域のスポーツを支える人たちが高齢化していますよね。

淀川委員　名古屋市では定年が 80 歳ですね。市町村によっては 75 歳、70 歳で定年とするところもありますけど、高齢者の割合が高いと思います。

來田座長　そういうのも数値化していかないといけない、ということですかね。ありがとうございます。

一巡しましたけれども、私の方から１点追加をさせていただきたいと思います。ジェンダー平等とか男女共同参画の指標が何もないので、入れていただきたいなと思います。

評価指標では、数値を持ってこようとする意識になりがちですけれども、委員のみなさんのご意見をうかがっていると、やはり数字で測れないことは結構たくさんあるということだと思うのです。このところのＥＵとかですね、それからＩＯＣとかのスポーツ政策関係の指標を見てみると、今までは数字で語っていたけれども、好事例を見つけ出して、それを政策課題の検証の中で“こんな事例が出てきました”、“こういうことをやっている人たちが出てきました”というふうに、「ナラティブな達成」とでもいうべき事柄が書かれているというのをよく見ます。

それから、もう１つは、やっぱりヨーロッパはすごいな、と思うことですけれども、“こんなことができなかった”“こんな課題を発見しました”ということを達成度合いに書くのですね。それを見ると、次にこれをしないといけないなということがすぐ分かるということです。こういう課題を発見しました、ということも成果だというふうに位置づけて書いているような文章もありますので、そういう工夫もやってもいいかなと思います。もちろん課題ばかりでは困るだろうということはよく分かりますが、とりわけ解決しないといけない課題を目標達成の度合いのところに、“こういうものを見つけました”と書けるような、そういう柔軟な発想もあっていいかなというふうに思います。

最後ですけれども、やはり横串を通さないといけないということ。ＳＤＧｓと絡めて語るということの意味は、部局横断的にスポーツを使っていくということ、それが最初から皆さんが言われていたことだったと思います。そうすると、他の愛知県における関連する政策がどういうＫＰＩを立てているのかということ、そのＫＰＩとスポーツとを絡めたらどういう達成状況を図ることができるのかということ、これがやっぱりないといけないはずですけれども、そうした他の部局が担当している政策に関する情報は、この委員会でもほとんど展開されていない状態ですし、さらにはそこで用いられているＫＰＩも紹介されていない状態です。次の会議までに、ぜひそれを展開していただきたいと思うのです。そして、分野横断的に私達はスポーツを通じて何を評価しようかということを考えられるようにしていただくと、より深みのあるものにできないかなと思います。お手間を

おかけしますが、お願いできればと思います。

いかがですかその点。

事務局（山肥田課長）　はい。整理次第お送りしたいと思います。

來田座長　ありがとうございます。時間が結構ギリギリになっていますが、他に委員の方でお気付きになった、追加しておこうということはないでしょうか。よろしいでしょうか。

もしお気付きになったことがありましたら、また担当の方にメールでお知らせいただけたらと思います。

それでは私の方はこれで以上にして、進行をお返ししたいと思います。

事務局（司会）　來田様におかれましては、長時間にわたり進行をお務めいただきまして誠にありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえて、引き続き策定作業を進めてまいります。次回の策定委員会は１月中旬の日程で調整をさせていただいております。調整が整いましたら、改めてご連絡をさせていただきます。

これをもちまして、第３回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

以　上